

まちの話題

4/15 御厨星鹿地区にあそびの空間

松浦港御厨地区緑地 遊具除幕式



松浦港御厨地区緑地整備事業が県の工事として進められる中、御厨星鹿地区には遊具のある公園が少ないため、市の単独事業（企業版ふるさと納税を活用）として、インクルーシブ遊具、ぶらぶらストレッチ、バランス円盤、背のばしベンチを設置しました。

除幕式には、みくりや双葉園、じこう保育園・慈光幼稚園、ほしか保育園の年長さんが参加。力を合わせて綱を引き、幕が取れると目新しい遊具に子どもたちの元気な歓声が上がりました。

4/19 新たな消防団員が入団

令和7年度松浦市消防団辞令交付式



同式が消防本部で行われ、18人の新入団員と、77人の団員が階級変更の辞令を受けました。

新入団員を代表し、第13分団の柁島大樹さんが宣誓を行い、谷口哲男消防団長が「誇りと自覚を胸に、一日も早く市民から信頼される消防人として活躍されることを期待します」と訓辞を述べました。

市消防団員数は、760人で、災害などから市民の生命や財産を守るため、日々の備えを大切にしながら活動しています。

4/19、20 鷹島本まぐろに来場者が舌鼓

鷹島肥前大橋開通記念イベント

同イベントが道の駅「鷹ら島」で開催されました。両日とも天候に恵まれ、市内外から約4,300人が来場。イベントでは鷹島本まぐろ解体ショーの実演があり、イベント特別価格で販売されたほか、まぐろ寿司が来場者に無料で振る舞われました。



4/22 稚アユ5万尾を放流

志佐川での稚アユ放流



今年も志佐川に稚アユを放流しました。
この取り組みは、志佐川の水産資源の維持などを目的に昭和63年より行われています。
例年、体験学習の一環として上志佐保育所と上志佐小学校の児童が参加していますが、あいにくの雨のため参加は見送り。
市職員などがトラックに積んだ水槽からバケツリレーで体長7センチ程の稚アユ5万匹を放流しました。
順調に育てばアユ漁が解禁となる6月には、約20センチまで成長する見込みです。

4/26 「よかまち みくりや」始動！

御厨地域まちづくり運営協議会「よかまち みくりや」



同会の設立総会が開催され、初代会長に山下智弘さんが選出されました。
まちづくり計画では、「豊かで住みよい地域」を将来像に掲げて、地域内の団体間の連携、住民の協働により、松浦港御厨地区緑地の有効活用や各世代の交流・場所づくり、交通対策等を目標としています。
山下会長は「人口減少や高齢化が進む中、将来を見据えて御厨に住みたいと思ってもらえるようなまちづくりを行っていきたい」と話しました。

5/1 子どもたちの健やかな成長を願って

みんなの子育て広場「URACCO (うらっこ)」こいのぼり掲揚式



こどもまんなか児童福祉週間を前に、みんなの子育て広場「URACCO」でこいのぼりの掲揚式を行いました。
同式には、志佐保育園3～5歳児23人とURACCOを利用する子どもたちが参加。
「こいのぼり」を元気に歌ったあと、力をあわせて綱を引き、こいのぼりを屋根よりも高く掲揚しました。空を泳ぐこいのぼりを見て、笑顔いっぱいの子どもたちから大きな歓声があがっていました。

5/5 和船を漕ぎ、歴史を紡ぐ

市指定無形民俗文化財「和船競漕（せいぐる）大会」

同大会（阿翁浦和船競漕保存会主催 青木貞二会長）が阿翁浦漁港で開催されました。この行事は、古来より阿翁浦地区に伝承されており、現在は市指定無形民俗文化財の保存承継と地域活性化や豊漁、子どもの健やかな成長を願って「こどもの日」に開催されています。今回は、鷹島中学校生徒、漁協青年部、地域住民など15チームが参加。約10人で和船に乗り込み、1レース、3隻の船が港内に設置された往復300メートルのコース上の旗を取るタイムを競いました。



5/6 爽やかな、あまーい香りに誘われて

キンショーメロンまつり



松浦メロン部会（辻邦彦会長）は「松浦の極みフェア」として、（道の駅）松浦海のふるさと館で同まつりを開催しました。

初夏の爽やかなキンショーメロンの甘さを求め、多くの来場者が販売開始前から列を作り、約1,000ケースを販売。

今年は、春先の低温に見舞われたものの、糖度の高い仕上がりとなりました。

鮮やかな黄色の果実は、贈答用としても大変喜ばれています。

5/13 おいしいイチゴ たくさんとれたよ

イチゴ畑無償開放 須藤邦寿園（志佐・西山）



同園の須藤正文さんは、市内の子どもたちに喜んでもらいたいと出荷シーズンが終わりを迎えるこの時期に合わせ、イチゴ畑の無償開放を企画。ほしか保育園の4～5歳児20人と松浦幼稚園全児童82人がイチゴの摘み取りを体験しました。

完熟したイチゴの甘い香りが漂うなか、子どもたちは「甘くて美味しい。山盛りに取れた。このイチゴ大きい」と嬉しそうに春の味覚を味わいました。